



2022年、環境保全と持続可能な開発に関するリオ宣言から30年という節目の年を迎えた。SDGsのもとになる国連の「持続可能な開発サミット」は、持続可能な開発のための2030アジェンダを採択し、生物や自然、文化等の多様性が重要な概念の一つとなり、観光と持続可能な開発目標も策定した。

一方、2021年に沖縄島北部(やんばる地域の一部)等が世界自然遺産に登録された。今後は、新型コロナウイルス感染症の拡大前から指摘されているオーバーツーリズムの課題を解決しつつ多様性を踏まえた誰でも楽しめる観光、いわゆるユニバーサルツーリズムの考え方も重要となろう。多様性には生活文化や価値観、産業等の様々な要素が含まれるが、本シンポジウムでは世界自然遺産、宿泊施設、福祉に注目し、沖縄県、とくに北部地域の観光に関する一つの方向性を探りたい。

プログラム	全体進行:許 点淑 (名桜大学上級准教授)
開会挨拶	13:30-13:40 嘉納 英明 (名桜大学大学院研究科長)
シンポジウムの趣旨	13:40-13:50 許 点淑 (名桜大学上級准教授)
基調提案	13:50-14:30 「選ばれる持続可能な観光地づくり」 親川 修 (NPO法人BFN会議)
シンポジウム	14:35 -15:35 ファシリテーター:大谷 健太郎 (名桜大学教授)
「世界自然遺産やんばると沖縄の観光」	新垣 裕治 (名桜大学教授)
「求められるホテルの多様性」	東恩納 盛雄 (名桜大学教授)
「観光×福祉×スポーツ」	親川 修 (NPO法人BFN会議)
クロス討論+フロアからの質疑	15:40-16:30
閉会挨拶	16:30-16:40 大谷 健太郎 (名桜大学教授)

2022.11/6日 13:30~16:40(13:00受付開始)  
イオンホールA・B(イオンモール沖縄ライカム3F)

■主催:名桜大学大学院国際文化研究科(国際文化システム専攻) ■共催:名桜大学環太平洋地域文化研究所

■問い合わせ先/名桜大学環太平洋地域文化研究所 〒905-8585 名護市字為又1220番地の1 TEL:0980-51-1107

シンポジウム

選ばれる

持続可能な観光地と

多様性

参加費無料

事前申込み不要